

上田仮説サークルニュース		1月例会	2016.01号
編集責任 遠藤 裕		発行2016.2.20	
〒383-0041 中野市岩船426-3 サカガーデン中野 B-G		TEL 0269-23-2847	携帯 090-1406-9115
メール endo-h@cronos.ocn.ne.jp		勤務先 長野工業高校	TEL 026-227-8555

1月23日(土) 上田市中央公民館 3F第1・第2学習室
午後3:00～9:00



参加者数 9名
資料総ページ 64ペ

<参加者> 柳沢克央さん, 増田伸夫さん, 渡辺規夫さん, 池田みち子さん,
高見沢一男さん, 大塚浩文さん, 北村秀夫さん, 北村知子さん, 遠藤裕

はじめに 1月例会の参加者は9名。

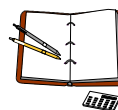
発表は, 柳沢さんから4本, 増田さんから3本, 渡辺さんから2本。合計9本の発表がありました。

柳沢さんは, 「宙船」の歌詞と原発再稼働, 年末年始読書三昧(16ページにおよぶ), 『日本型学校主義』を超えて(戸田忠雄著)の書評, 瀬在徳雄さんのこと。また, エナジースティックを持ってきて見せてくれました。

増田さん<今月の書評>の3本。

渡辺さんは, 冬の大会(徳島大会)に参加して考えたこと, 板倉さんのメモの紹介。レポート発表の後, 知子さんが準備をしてきてくれた<ものづくり>をやりました。「花づくり」と「どきどきハート」。知子さんになんだかんだと質問をしながら, ていねいに教えていただき, 完成することができました。いつもいろいろなものづくりの準備をしてきていただきありがとうございます。

終了後, 夢庵で夕食。



1. 発表資料

① サークルニュース 12月例会 遠藤 裕 (9ペ)

1. 発表資料

- ① サークルニュース 11月例会 遠藤 裕 (8ペ)
- ② [書評(要約?)]「索引」つきで事典のように使える本 増田伸夫さん(24ペ)
- ③ [書評] 対話なき武力行使で紛争解決はできない 増田伸夫さん(4ペ)
- ④ [書評] ISのこと(来歴, 思想, 組織)がよくわかる本 増田伸夫さん(12ペ)
- ⑤ パワーポイント版<ものとその電気> 北村知子さん(4ペ)
- ⑥ 物理実験 弦の固有振動 渡辺規夫さん(2ペ)

- ⑦ 上田自由塾 子ども向け冬季講座 まとめ 渡辺規夫さん (3ペ)
- ⑧ すべての子どもに科学を 吉村 証^{あかしこ}子^こを語る 渡辺規夫さん (8ペ)
- ⑨ 子育ては「平穩無事」がよく似合う 柳沢克央さん (1ペ)
- ⑩ どうなる？世界の経済・日本の経済 望月久和さん (8ペ)

② 「^{そらふね}宙船」と原発の再稼働 柳沢克央さん (2ペ)

「宙船」の歌詞と信濃毎日新聞の記事の紹介。

「宙船」は中島みゆきが作詞・作曲で、2006年に TOKIO が歌い大ヒットした曲。信毎の記事は「高浜再稼働 地裁認める」(2015.12.15)と社説「安全神話を創るのか」(2015.12.26)の2本。歌の歌詞と原発再稼働の記事、その両者にどのような関係が？

「宙船」の歌詞に柳沢さんは→で示した意味が読み取れるとのこと。

<間奏> 何の試験の時間なんだ！ → 教育
 何を裁く秤なんだ！ → 司法
 何を狙って付き合うんだ！ → 外交
 何が船を動かすんだ！ → エネルギー

一方、「高浜再稼働 地裁認める」の記事は

関電が4月の仮処分決定に異議を申し立てていた。当時の樋口英明裁判長は新基準を緩やか過ぎるとし、高浜2基の再稼働を禁じた。しかし、林裁判長は一転させ「最新の科学的・技術的知見に基づき合理性がある」と認定。

また、社説「新安全神話を創るのか」の内容は

・・・福井地裁が、関西電力高浜原発3、4号機(福井県高浜市)の再稼働を差し止めた4月の仮処分決定を取り消した。・・・事故を招いたのは、想定を超える事態は起きないという安全神話に、政府や東電、専門家が寄り掛かったためではなかったのか。・・・「新基準に合格した原発は再稼働する」という政府の方針を追認している。新たな安全神話にもなりかねない。

「宙船」の歌詞に、原発再稼働のような社会問題を考えるときのキーワードが盛り込まれているという柳沢さんの分析です。こんなことに気づく柳沢さんの直感力、すごいです。

(「宙船」を作詞・作曲した中島みゆき、20代の頃よく聞きました。非常に息の長い歌手ですね。

自分が年を重ねてきたせいか最近はあまり聞いていませんが。長野で行ったコンサートを聴きに行ったこともあります。懐かしい……。 エンド)

③ 2015-2016年末年始読書三昧 柳沢克央さん (16ペ)

— 「弁護士式読書法」をやってみた —

年末年始休業中に読んだ本の読書記録の紹介。

年末年始休業中に読んだ20冊分もの本の読書記録です。16ページにわたる大レポートです。

柳沢さんはきっかけをくははじめに>で次のように書いています。「前任校で、ある女子生徒からこんな話を聞いた記憶がある。「…私の父は弁護士で、いつもたくさんの案件を抱えている。そのせいか、読書するときも一遍に何冊も本を並べて、一つの本を読んでいた飽きると、他の本に移るといようにして同時並行で読んでいる」と。それを聞いて「面白そうだから、いつかやってみよう」と思っていた。

昨年末、篠ノ井高校の図書室で、たまたま読みたい本をたくさん見つけた。クラス生徒の進路指導が難しい局面を越えて、精神的にゆとりが出てきたことも関係しているかも知れない。司書の小田先生に「何冊まで借りられますか」と訊いた。そうしたら、「制限冊数はありません」との答え。嬉しくなったので、ここぞとばかりに1ε冊を一度に借りて読んだ。」

- ◎エティエンヌ・ド・ラ・ボエシ著・西谷修監修・山上浩嗣訳『自発的隷従論』（筑摩書房・ちくま学芸文庫）
- ◎『中学生からの大学講義1－何のために「学ぶ」のかー』（筑摩書房・ちくまプリマー新書）
- ◎『中学生からの大学講義2－考える方法ー』（筑摩書房・ちくまプリマー新書）
- ◎『中学生からの大学講義3－科学は未来をひらくー』（筑摩書房・ちくまプリマー新書）
- ◎『中学生からの大学講義4－揺らぐ世界ー』（筑摩書房・ちくまプリマー新書）
- ◎『中学生からの大学講義5－生き抜く力を身につけるー』（筑摩書房・ちくまプリマー新書）
- ◎門脇正法著『少年ジャンプ勝利学』（集英社インターナショナル）
- ◎^{せてるひさ}施光恒著『英語化は愚民化』（集英社新書）
- ◎村上春樹著『ラオスにいったい何があるというんですか？－紀行文集ー』（文藝春秋）
- ◎高橋正樹著『日本の火山図鑑』（誠文堂新光社）
- ◎荒俣宏著『サイエンス異人伝』（講談社・ブルーバックス）
- ◎舞の海秀平著『なぜ、日本人は横綱になれないのか』（ワック）
- ◎森本あんり著『反知性主義－アメリカが生んだ「熱病」の正体』（新潮社・新潮選書）
- ◎梶田隆章著『ニュートリノで探る宇宙と素粒子』（平凡社）
- ◎戸田忠雄著『「日本型学校主義」を超えて－「教育改革」を問い直すー』（筑摩書房・筑摩選書）
- ◎ソオドア・グレイ著、ニック・マン写真、武井摩利訳『世界で一番美しい分子図鑑』（創元社）
- ◎ジョージ・ソルト著、野下祥子訳『ラーメンの語られざる歴史』（国書刊行会）
- ◎矢島文夫訳『ギルガメシュ叙事詩』（筑摩書房・ちくま学芸文庫）
- ◎加賀乙彦著『日本の古典に学びしなやかに生きる』（集英社）
- ◎島下泰久著『間違いだらけのクルマ選び2016』（草思社）

<まとめ>より

この読書法について柳沢さんは「メリットは、今のところ、これといって感じていない。」と言っていますが、自分がちょっと「贅沢な気分」になったことと、子どもさんたちに「ウチの親父はコタツに寝転がって一日中何冊も取っかえ引っかえ本を読んでいたな～」という記憶は残してあげることができたと思うと書いています。

サークル 1 月例会で発表するのを目的にすることで、このような形で読書記録を書くことができた。書くことを目的にすると、書名一つとっても正確に認識しなければならないし、引用や要約もしなければならないので、それだけでも勉強になる。記録があれば将来、何かの役立てることができるかもしれない。備忘録としても役立つ。数年後にこの文章を読み返すのが今から楽しみだ。

板倉聖宣氏がかつて、「本は《ボクの知りたいことについて、ボクの諮問＝（重要事項の決定や問題解決に先立ち、専門的見解を持つ学識経験者などに尋ねること）に答えよ》という姿勢で読むことが大切なんだ」という主旨のことを言っていた。

今回読んだ本の中では特に、『ニュートリノで探る宇宙と素粒子』および『反知性主義－アメリカが生んだ「熱病」の正体－』を読んでいるときに、この姿勢で読むことが大切だなあと感じた。

(しかしこれだけの本を 2 週間くらいで読んでしまうというのはすごいですね。お子さんたちにもいい姿を見せることができたようです。私(エンドリ)は、本屋さんでこれは面白そうだから読んでみようと思って買ってきた本が山積みです……。 エンドリ)

④ 書評 『「日本型学校主義」を超えて』 柳沢克央さん (3 ペ)

－教育改革を問い直す－

戸田忠雄著『「日本型学校主義」を超えて』の書評。

この本の著者の主張、筆致がストレートに伝わってくる書評です。柳沢さんは「本書を熟読する事なくして今後の学校について誠実に考え、語ることはまず不可能であろう。」と書いています。

タイトルに「21 世紀型 最強ハイブリッド学校論」とあります。

著者の主張は以前から首尾一貫している。すなわち、それらは「与える教育」から「選ぶ教育」への転換、「教師主導」から「学習者（児童生徒と保護者）本位」への転換、および「集団的一斉主義」から「個性尊重」への転換である。これこそが標題にある「日本型学校主義」の「超克」である。これは著者独自の主張であると同時に「この流れは日本が民主社会である限り時代と歴史の必然であって、何人もこの流れを止めたり、逆流させることはできない」（著者）。

この主張は他に類を見ないものであり、他者の追随を許さない。なぜこれが可能になったのか。それは著者の「教育現場での経験」と「学習者主権の視点」の両方をもとに

教育を分析できる複眼的思考によるものと推察する。

著者の筆致は明朗かつ鮮やかで、まさに名匠の業である。また、古今東西の名著からの的を射た引用は縦横無尽。これらの相乗効果に思わず息を呑む。歴史・国民性・マスコミ・各種統計・教育思潮・組織論・制度設計・・・等々への目配りは万全であり、抜かりはない。また、ユーモアの味付けも忘れない。文章の躍動感と気宇壮大な展開はフランスの巨匠オリビエ・メシアンの大作「トゥランガリーラ交響曲」を連想させる。

最後に、本書に登場することがらを多面的・象徴的に暗喩する歌を紹介して結ぶことにしよう。「その船は 今どこに ふらふらと 浮かんでいるのか その船は 今どこで ぼろぼろで 進んでいるのか 流されまいと 逆らいながら 船は挑み 船は傷み すべての水夫が 恐れをなして 逃げ去っても その船を漕いでゆけ お前の手で漕いでゆけ お前が消えて喜ぶ者に お前のオールを任せるな」歌：TOKIO『宙船（そらふね）』より、作詞・作曲：中島みゆき（2006年）（3・11を予見するかのような内容を持った驚くべき曲！）

「その船」とは誰（または何）を指すのか。…学習者（児童生徒とその保護者）なのかも知れない。教師なのかも知れない。学校なのかも知れない。改革者なのかも知れない。日本なのかも知れない。そして私（貴方）自身かも知れない。それが何を指すのか知りたい方は、本書を読まれよ。

②でも「宙船」がでてきましたが、この本にも通じるところがあるとは。教育関係者に是非読んでみようという気持ちにさせる書評です。 エトワリ

⑤ 瀬在徳雄さんのこと 柳沢克央さん（1ペ）

サークルに参加されていた亡き瀬在徳雄さんの思い出。

瀬在さんが亡くなられて何年が経つのだろうか。私（遠藤）は、瀬在さんといえば中高校流で上田3中に勤務されていた頃のことをよく思い出します。ホームルームでもの作りをしたり仮説の授業書をやって生徒と楽しんだというお話をうかがったのが昨日のようです。柳沢さんは、瀬在さんとの思い出を書いてくれました。

予備校主催の会議でのこと。担当者の説明が始まると、蛍光ペンで資料に書き込みをし、瀬在さん独自の資料に加工されていく。同時に、情報が完全に瀬在さんの脳髓にインプットされていく手応えのようなものが私にまで伝わってくる気がしたものだ。また、ハンドボールの大会で会ったとき、『ワープロは十本指で』という本を紹介した。瀬在さんが「ちょっとこれ貸して」と言って30分ほど熱心に読んでいた。読み終わるとすぐ返してくれて、「なるほど、そうだったのかという感じ。これでどうやって10本指でワープロを打つのがわかったよ」と、その理解のスピードの速さに驚いた。

いまでも時々、瀬在さんのガリ本『春風秋雨烈暑厳寒』（マテマ通信社）を本棚から

取り出しては、いつも穏やかだった瀬在さんのことを思い出すのだ。

(私(エンドウ)も瀬在さんのガリ本『37+1人の中学校日記 ぼちぼちいこか 北極星と南十字星も』を手元に置いてあり、クラス通信を出したりするときに参考にさせていただいています。また授業書の内容を送っていただいたりしたことも思い出されます。 エンドウ)

⑥ <今月の書評5> 「宗教で世界がわかった!」と思える本 増田伸夫さん(8ペ)

『世界史で読み解く現代ニュース<宗教編>』の書評。

『世界史で読み解く現代ニュース<宗教編>』

池上彰+増田ユリア著(ポプラ新書)(2015年6月第一刷)(本体780円(税別))

増田さんは、「まえがき」より。

とても読みやすい本です。さすが池上彰ですね。わからない、難しいと思う言葉が出てこない。

この本で著者たちが言いたいことをヒトコトでまとめるなら、「世界史は<現代を見る目>となる。だから、<宗教の歴史がわかると世界の今がわかった>と思えるでしょ!」ということだと思う。「思えるでしょ!」という言い方では、この本を批判しているように聞こえるかもしれないが、そうではない。<世界の今がわかった!という気になれる>ということとは、とてもすばらしいという意味である。

本書では、いずれも西アジアで生まれ、唯一神を崇拝するという共通した世界観をもっている、イスラム教、キリスト教、ユダヤ教という3つの宗教について、<その歴史を知ることで、現在大きな問題となっているニュースの背景が見えてくる>ことをねらいとしている。

また3つの宗教ごとに、はじめに①「池上彰・増田ユリア対談」があり、<各宗教をめぐる世界の状況>について自由討論がされ、次に②「増田解説」があり、<各宗教の歴史、教えなどの基礎知識>が解説される。そして最後に③「池上解説」があり、<各宗教の歴史や教えが現代にどのようにつながっているかを解き明かす>という構成になっている。こういう構成もよい。

最後に「本書は、現代ニュースの背景を宗教の歴史から、的確の言葉で解説してくれる良書である。一読をお勧めする。」と増田さんは書いています。

◇なぜ今、宗教を知らねばならないのか

◇イスラムへの偏見と「イスラム原理主義」

◇大本にある中東問題

◇ブッシュ政権がISを生み出した

◇イスラム過激派とサウジアラビアの「ワッハーブ派」

- ◇歴代米国大統領は、ケネディ以外すべてプロテスタント
- ◇「十字軍」という言葉
- ◇浮かびにくいユダヤ教のイメージ
- ◇ユダヤ人迫害の歴史

(世界情勢というとなれもこれも知らなければと思ひ收拾がつかないイメージがあります。この本は、宗教の歴史に注目することによって、現代の世界情勢を理解する。＜世界の今がわかった！という気になる＞ようです。基礎学力を身につける上で読んでみたい本です。 エドワ)

⑦ <今月の書評6> 「索引」つきで事典のように使える本 増田伸夫さん(4ペ)

『歴史図解 中東とイスラーム世界が一気にわかる本』の書評。

『歴史図解 中東とイスラーム世界が一気にわかる本』

(宮崎正勝著)(日本実業出版社)(2015年6月1日初版発行)(本体1500円(税別))(宮崎正勝著『早わかり 中東&イスラーム世界』2006年 日本実業出版社刊 のリメイク版)

増田さんは、「まえがき」で次のように書いています。

ミニ問題集「イスラム教とアラブ」を作りたいと思って去年(2015年)8月に中野市立図書館へ行き、3冊借りてきた本のうちの1冊が宮崎正勝著『早わかり 中東&イスラーム世界』。ざーっと読んでから、買うに値する本だと思い、注文しようとしたら、リメイク版(本書)が出ていたので、本書の方を購入しました。

イスラムの通史を知るにはとても良い本で、イスラムについての基礎知識の詰まった本だと思った。特に巻末に「索引」がついているので、まるで事典のように使える本である。イスラム教や中東に関連する言葉で、意味のわからない言葉がでてきたときは、すぐに「索引」を使って調べることができる。これはとても便利である。

著者は高校教諭～筑波大学講師～北海道教育大学教授を経て、現在はNHK文化センター等の講師。

- ◇はしがき
- ◇序章「見えにくい中東をクリアにする」
- ◇「英仏による中東の分割」(ヨーロッパ諸国の時代)
- ◇「第二次世界大戦後の中東世界」(中東の自立と混迷)

(増田さんは「この本を読んでいて＜戦争すると(戦争当事国は)疲弊(弱体化)する＞という法則性があるのではないか、と思った。」と書いています。これを読むと、決して「国家の利益」のための戦争はしてはいけない、という気持ちを新たにしました。 エドワ)

⑧ <今月の書評(本の紹介)7>世界史から「世界の今」を捉える 増田伸夫さん(12ペ)

『大世界史—現代を生きぬく最強の教科書—』の書評。

『大世界史—現代を生きぬく最強の教科書—』

池上彰・佐藤優著(文春新書)(2015年10月20日第一刷 2015年10月25日第二刷発行)(定価:本体830円(税別))

増田さんは、「まえがき」で次のように書いています。

この本で著者が言いたいことをヒトコトでまとめるなら、「現代をよりよく理解するためには歴史の学習が欠かせない。世界史から<世界の今>を捉えることが必要だ」「世界史をただ漫然と学んでも、何の意味もない。<歴史は、現代と関連づけて理解することで、初めて生きた知となる>なのであって、そうすることで<今の自分の立ち位置を知る>ことにも繋がる」ということになるだろうか。

著者の池上彰は、テレビでもおなじみのジャーナリストで、現在は東工大教授。佐藤優は、元外務省主任分析官のクリスチャン(カルヴァン派)で、現在は作家。

本書は池上彰と佐藤優の対談となっているが、池上は多くの場合聞き役にまわり、佐藤が言いたいことを言い、池上が佐藤の発言を補足説明する、といった形で対談が進む。

問題が16題あり、<それらの問題を考えてもらうことで、この本の細介を試みてみよう>という趣向で本文が書かれています。(以下は問題の前にあるタイトル)

- ◇錯乱状態のアメリカ
- ◇ISが最も敵視している勢力
- ◇イスラム世界の覇権争い—アラブ・トルコ・イラン
- ◇オスマン帝国の復活?
- ◇「第二イスラム国」の誕生?
- ◇中央アジアに影響力を強めている国
- ◇明の帝国主義論と日中韓の歴史認識問題
- ◇日韓関係改善のカギは?
- ◇ギリシャ国民をDNA鑑定したら
- ◇これからドイツが手を握る相手は?
- ◇国際連盟と国際連合の違い
- ◇「戦後70年談話」をどう受け止めるか
- ◇「新・核の世紀」の幕開け
- ◇植民地統治と教育
- ◇言語表記法
- ◇世界史Aの教科書

(増田さんは最後に「本書は随所に新しい発見があり、読み応えのある本となっている。「世界の今」が見えてくる気がした」と書いています。「世界の今」が見え、その中に自分が位置づけられたらいいなと思います。 エドワ)

⑨ 研究の方法について 渡辺規夫さん (5 ペ)

冬の大会(徳島大会)に参加して考えたこと

渡辺さんは「冬の大会はサークルを大きくしたような雰囲気でもとても充実していたと思う。「仮説実験授業をやって感激した」という発表が何人かちもあり、そういう人たちの存在がなければ研究は活性化しないだろうと思った。しかし、一方で気になることもあった。」と書いています。そして、次の7つの点について論じています。

1. 生徒が歓迎すればいい授業書か
2. 授業書の作成, 改訂について
3. 地球はもえかすか《燃焼》の改定案のお話について
4. 《燃焼》の授業で, 水素ガスをボンベから吹き出させて直接点火することについて
5. 誘電分極は静電誘導の一種か
6. あかりと油
7. 熱はどこにたくわえられるか

最後に「今, 教員大量退職時代である。多くの仮説実験授業研究会会員の退職とともに仮説実験授業研究の貴重なノウハウが失われることになりかねない。研究とは何かということを考えなおした大会だった。」と結んでいます。

(授業書の作成や改訂, 授業での実験の仕方など, 渡辺さんが大会に参加して感じたことがまとめられています。仮説実験授業研究のノウハウを若い先生方に引き継いでいく仕事もこれからますます重要になってきそうです。 エトウ)

⑩ 紹介 物理学史の研究と物理教育の現代化の問題 渡辺規夫さん (4 ペ)

国立研究所 板倉聖宣 (1963.7.28 車中にて)

板倉さんのメモ(車中にてとありますので)の紹介。

- 力学はいかにして生まれたか(科学的-物理的な考え方とは何か)
- 日本における力学の流産(実証的, 数量的=科学的ではないということ)
- 物理教育の問題
- これまでの物理教育の考え方はどのようにして出来たか
- 科学の発展のスピードを量的にはかると
- 科学が進歩すると科学教育がやさしくなる面も大きくなること

問題例 3題

(手書きのコピーの紹介でしたが, 多分板倉さんの自筆(?)だと思います。1963年とありますからちょうど仮説実験授業が提唱されたころに書かれたもので, 貴重な原稿だと思います。 エトウ)

2. ものづくり 講師：北村知子さん

<花づくり> <ドキドキハート> 『たの授』 2000年2月号



あとがき まだ2月中旬だというのに、このところ3月から4月の陽気が続いています。



今年は雪も本当に少なく、生活が楽だという気がします。

そろそろ年度末になり、学校現場では転勤の話や来年度の分掌についてあちらこりらで話題になっています。私（エンドウ）は、現在の長野工業高校で6年が過ぎようとしています。来年度の転勤希望は出してないので、もう一年長工にお世話になる予定です。7年ともなれば余裕を持って仕事をしたいと思っていますが、追い込まれないとやらないという性格上どうなるかわかりません。仕事を効率的にして時間を大事にしたいと思います。

★ 今後の予定 ★

3月19日(土)

4月23日(土)

5月28日(土)